

【取組内容①】 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

運動・体調データをリアルタイムでモニタリングしながら行う保健体育の授業〈持久走〉

「走る」という中にも目的に応じてさまざまな走り方があるが、「持久走」は、辛く、きついものといったイメージを生徒は持っている。本授業は、ウェアラブルデバイスを用いて持久走時の心拍数を計測し、端末でモニタリングすることで心拍数に関心を向けさせる。そして、個々の生徒に適した「マイペース」を覚えることで、健康な体の保持や、持久力の向上に効果的であることを理解する。また、ペアで心拍数を測定、ペースの指示を行うことで個々の体力差や心拍数の違いについて理解しあう。個別最適な学びと協働的な学びの往還をデジタル媒体を用いて実現しようと試みた。



民間事業者から機器を提供していただき、和歌山大学教育学部と提携し、単元の指導方法についてアドバイスをいただいて授業に取り組んだ。

【成果】色々なペースで走ることを繰り返すことで、ラップタイムや心拍数の関係に関心をもつことができた。これにより持久走に対する意識が変わり、楽しんで持久走に取り組む生徒が増えた。また、ペアで活動することで、生徒間のコミュニケーション力を高めることができた。

【取組内容②】録音・録画の機能を活用した協働的な学習

実際の参観と録画や動画配信を活用した学校行事の体感と理解

小中一貫教育校である本校は、中1ギャップを解消し、小学校から中学校への接続をスムーズに行うために、様々な交流を行っている。交流は対面交流も行うが、場面によっては録画を視聴したり、オンラインで交流したり、コンテンツを共有したりしている。いくつかの学校行事において、今年度は小学校5年生は録画したものを一人一台端末で視聴し、内容を理解するようにした。一方、小学校6年生は実際に見学し、その場の雰囲気を感じることによって、来年は自分たちがこの場で行事を行うという心の準備が行えるようにした。



【成果】川戸小学校6年生は、中学校の生徒総会（左写真）、体育祭（右写真）を見学した。生徒総会の厳粛な雰囲気の中、中学生が運営する会を体感し、体育祭では全校生徒で行う「川中ソーラン」を間近で見学し、その迫力を体感した。見学した児童の感想から、「来年は自分たちも中学生として参加する（参加したい）」という気持ちになったという感想が多く、事前の心の準備が行えたことが伺えた。

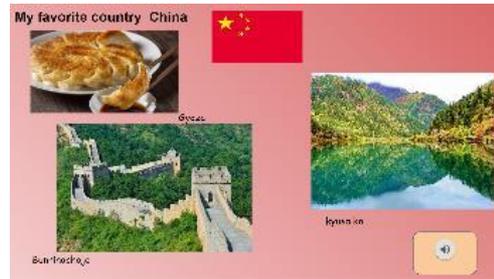
小・中学校の接続を考えたとき、小学校5、6年生が場面や発達段階に応じて交流の方法を選択し、中学校の行事を視聴・見学できることは、中1ギャップの解消にとっても効果的である。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

千葉市立川戸中学校

【取組内容②】「録音・録画の機能を活用した協働的な学習」

スライドで録音・録画を活用することで、自分自身や他社との協働的な学習の実践

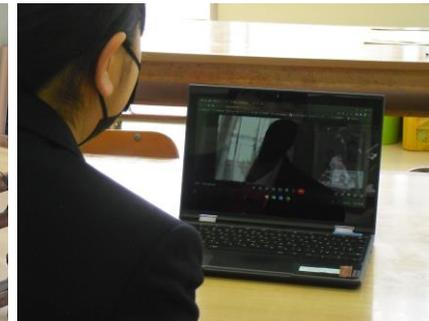


【成果】 スライドの音声録画の機能を使用して、自分の声を録音し聞くことができるようにした。録音した音声を聞き直し、生徒は発音や表現を確認した。こうした練習を生かし、自分で選んだ国を紹介するプレゼンを行った。プレゼンの発表時とそれまでの練習時の発音を聞き比べることで、自己評価や他己評価を容易に行うことができ、評価時のコメントも具体的に記載できた。 **<外国語>**



- ①7×9 6 3
- ②8-5 3
- ③6+9 1 5
- ④8+4 2
- ⑤4×6
- ⑥20+5
- ⑦9-6
- ⑧42+5
- ⑨36-4
- ⑩8×6

- ①操作
- ②発信
- ③理想
- ④簡単
- ⑤場面
- ⑥具体的
- ⑦抽象的
- ⑧特徴
- ⑨基準
- ⑩縮小

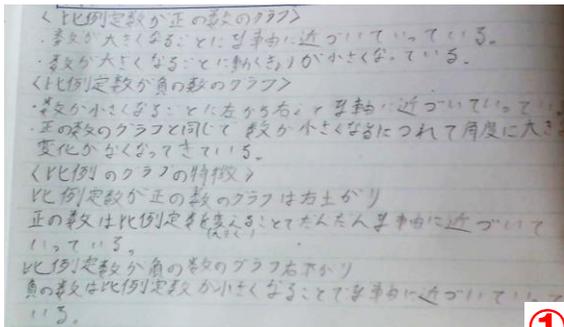


【成果】 特別支援学級においてもスライドを共同編集できるようにすることで、オンラインで画面を通して教室にいない生徒とも学習することができた。社会科では国名を正しい国の位置に移動させたり、数学や国語の学習でも計算や漢字の答えを出し合うなど、スライド内で協働的な学習ができた。共同編集が可能になることで、多くの人数で同時に編集できるようになるため、教室以外の場所にいる配慮が必要な生徒にとっても、一緒に学び合う感覚を味わうことができた。 **<特別支援教育>**

【取組内容③】 端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実

各教科でのスライドを活用した課題の提出

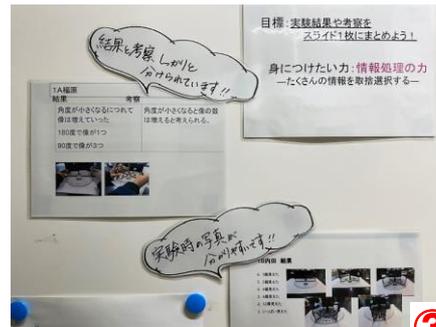
各教科において、授業での内容を活かし、家庭学習としてスライドでまとめるよう課題を出した。生徒は、授業の内容を写真に収めたり、更に詳しく調べたりした内容をスライドにまとめて提出した。教科によっては、模範的な作品を廊下に掲示し、他の学年の生徒にも見せて参考にさせるようにした。



①



②



③



④

数学: グラフ作成ソフトを使い、比例・反比例のグラフを調べた。式を入力して、様々なグラフを時間をかけずに表示できたことで、式とグラフの関係について考察の時間を十分にとることができた。特に、比例定数を極端な数にしたグラフを簡単に調べることができ、生徒の考察の幅が広がった。【①】

理科: 実験の様子を生徒は自分で写真を撮影し、自宅でスライドにまとめる課題に取り組んだ。提出されたスライドのうち、まとめ方がよかったものをコメントを付けて掲示した。【②～④】

【成果】 スライドにまとめる「課題」としたことで、目的の明確化が図れ、生徒の取組も意欲的になった。また、教員も内容の確認が効率的に行えた。課題提出後に内容を丁寧にまとめてある生徒のスライドを印刷して、良かったポイントを示し、他の学年の生徒にも見ることができるようにした。これにより、生徒が課題として提出するスライドの内容、まとめ方が向上してきた。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

千葉市立川戸中学校

【取組内容④】「校務の効率化」

学校・家庭間連絡システムの活用

千葉市では、令和3年4月より、千葉市立学校共通の学校・家庭間連絡システムを導入し、保護者から学校への欠席等の連絡や、学校から保護者への連絡を行えるようにしている。このシステムの活用をさらに工夫し、学校からの多くの伝達事項について配布文書を減らすことに取り組んだ。また、校外学習、宿泊学習の様子をその日のうちに伝えるようにした。

欠席・遅刻日	学年・学級・出席番号/児童・生徒名	種別	連絡内容
2024/02/21 水		遅刻	登校時間 2024/02/21 10
2024/02/21 水		病欠	病状 頭痛、腹痛、発熱、下痢 病名 備考
2024/02/21 水		病欠	病状 咳、のどの痛み、鼻水 病名

欠席者や欠席理由、症状、遅刻予定者の登校予定時間などを保護者が記入することができる。職員は、一人一台端末で教室など、どこでも確認をすることができる。また、職員が確認したことが保護者へ「確認済」として通知されるのは、お互いの確認が取れてとても良い機能であった。

受信箱 311件	絞り込み	一括操作
自然教室の報告 (1)		
宛先: 前田 務、前田務		
2学年保護者の皆様 今朝は早い時間から生徒の出発にご協力いただきありがとうございます...		
2学年 学年便りの配信について 2/		
宛先: 前田 務、前田務		
2学年 保護者の皆様 日頃より本校の教育活動にご理解ご協力いただきありがとうございます...		
1学年 学年便りの配信について 1/3		
宛先: 前田務		
1学年保護者の皆様 日頃より、本校の教育活動にご理解ご協力いただきありがとうございます...		
3学年 学年便りの配信について 1/3		
宛先: 前田務		
3学年保護者の皆様 日頃より、本校の教育活動にご理解ご協力いただきありがとうございます...		
P T A だより (No. 3) の配信に... 1/3		

宿泊学習の様子を写真と一緒に該当学年の保護者へ配信した。

学年だよりを該当学年を対象に配信した。また、学校だよりやP T A作成のP T Aだよりは全校を対象に配信した。

【成果】学校から家庭への配布文書をデジタル配信に変えたことで、学校評価アンケートにおける保護者の「学校・学年だよりを見ているか」という問いに対する肯定的な回答が大きく向上した。この結果から、保護者も学校からの通知等を確実に確認しやすくなったと感じたからではないかと推測できる。また、宿泊学習等の様子を配信したことで、天候不順により道路状況が悪化し、帰宅できるかどうか、また帰宅時間の目安などを逐一連絡できることは、保護者にとって安心材料となった。